

障がい者などの就労促進にむけて

市とアイエスエフネットグループが協定締結

協定調印式で握手を交わす
中村市長と渡邊代表

就労促進に関する協定調印



市と情報関連企業のアイエスエフネットグループ（東京都）は4月16日、ひきこもりや障がい者などの“就労困難者”に働く場をつくる『ユニバーサル就労』に関する連携・協力協定を、県内で初めて結びました。同グループでは、全国で約1,400人の就労困難者を雇用。今年度中には旧御領鬼池小学校を拠点に情報関連業務を開始します。協定調印式で渡邊幸義代表は、「ノウハウと実績をいかし必ず成功させたい」と話されました。

新鮮な魚がいっぱいとれたよ

大浦地区振興会「ひと網オーナー制度」



▲とれたての魚を手にする参加者

4月から、有明町の大浦地区で「ひと網オーナー制度」が始まりました。同地区振興会が地域振興を目的に取り組んでいるもので、定置網漁・底引き網漁の体験を行い、水あげされた魚は、すべて参加者のものになります。5月2日に参加した家族は、とれたてのイカを船上で試食し、「コリコリしてとてもおいしい」と新鮮な海の味覚を堪能していました。

天草の歴史を楽しく学ぼう！

五和地区公民館歴史講座「天草歴史こぼれ咄」



▲講演をする上中さん

5月9日、五和地区公民館主催の「歴史講座」が五和町コミュニティセンターで行われ、市内外から84人が参加しました。元本渡歴史民俗資料館館長で郷土史家の上中万五郎さんを講師に招き、「天草歴史こぼれ咄」と題した講演を実施。自作の絵を使って市内の地名の由来を解説されたほか、天草に古くから伝わるわらべうたを披露。参加者は笑顔で聞き入っていました。

御所浦の新たなおみやげが販売開始

ごしょうら島ふ〜ど



▲「ごしょうら島ふ〜ど」を手にする生産者の皆さん

4月22日、御所浦ならではの食材を使った新たな商品ブランド「ごしょうら島ふ〜ど」の販売が、御所浦物産館しおさい館でスタートしました。同館に農林水産物を出荷している生産者が、地元のまちおこしグループの御所浦島おこし隊の支援を受け開発。商品は、魚のすりみでごはんを包んだ「島のおにぎりすりみ」や魚のすりみで作ったしゅうまい「ふいっしゅうまい」など6品。購入方法などの詳細は、同館☎1234へお尋ねください。

うしぶか海彩館が“道の駅”に!

市内2カ所目の登録

牛深町の市の観光・物産施設「うしぶか海彩館」が4月15日、市内では有明リップランドに続いて2カ所目となる“道の駅”に登録されました。道の駅とは、国土交通省が道路利用者への休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能をあわせ持つ休憩施設を、自治体などの申請を受けて登録しているもの。今回は同館を含む19駅が登録され、同日現在で全国で1,059駅となりました。同館は、平成9年4月にオープン。市の南の玄関口である牛深港に隣接しており、去年は年間約23万人が来場。館の管理・運営は「株式会社うしぶか」が行っています。同27日には、国土交通省



▲「うしぶか海彩館」の外観

九州地方整備局熊本河川国道事務所の西野賢治所長が市役所を訪れ、中村市長に登録証を交付。中村市長は、「地域振興施設としてさらなる創意工夫を図り、交流人口の増加に取り組みたい」と話していました。

オリーブの6次産業化の実現に向けて

市と天草拓心高校が協定締結



▲協定書を手にする中村市長と森山校長と同校生徒たち

市と天草拓心高校は4月23日、オリーブの“6次産業化”の実現に向け、栽培・加工・販売の研究を共同で行う協定を結びました。芥明高校と芥洋高校が統合し天草拓心高校になったことから、あらためて結ばれたもの。

同校で行われた協定調印式では、中村市長と森山大介校長が協定書に調印したほか、生徒たちがこれまで取り組んだオリーブ料理のレシピ開発や栽培研究に関する成果を発表しました。

子ども民生委員が誕生

本渡東小学校全児童が「子ども民生委員」に



▲委嘱状を受け取る児童

本渡東小学校の全児童59人に5月12日、「子ども民生委員」が委嘱されました。校区内の民生委員とともに、あいさつ運動や高齢者宅への訪問などの見守り活動をしてもらおうと、市社会福祉協議会が設置したもので、県内初の取り組みです。同校で委嘱状交付式が行われ、同協議会の中村五木会長が各学年の代表に委嘱状を交付。その後、児童全員で「おじいちゃん、おばあちゃんと進んで交流します」など4つの“子ども民生委員信条”を力強く朗読しました。